

第1章 あいち小児保健医療総合センター 令和2年度保健活動概要

I. 保健センター活動概要

保健センターの主な機能は①相談・支援、②教育・研修、③調査・研究、④情報提供の4つに分類される。本章ではそれぞれの機能に関して、今年度の活動の特徴を示し、その後それぞれの実績の概要を示す。また今年度は愛知県健康福祉部児童家庭課より委託を受けて愛知県母子健康診査マニュアル第10版を作成した。

1. 相談・支援

- ・ 保健医療相談は、外来や病棟など医療部門の受診患者・家族からの療育・療養に関する相談が高い割合を占めている。救急部門開設に伴い事故予防に関する相談が増加し、周産期部門の開設に伴い、新生児や産婦からの相談が増加している。
- ・ 新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴い外来受診者数や入院患者数が減少した際でも、このような相談対応や患者支援の依頼件数の減少はほとんど認められず、センターの病院機能に大きく貢献した。
- ・ 子どもの病気や事故に対する相談と子育て相談の双方に対応している時間外電話相談は新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴い一時中断し、解除後に回線を減らして再開した。その為、対応した相談件数は大きく減少したが、未だ相談ニーズに答え切れていないと考えられる。

2. 教育・研修

- ・ これまで小児医療の技術を地域関係者と共有する研修、現場の事例の問題や課題を解決するスキル取得型研修、グループワーク等を実施し今年度も企画していたが、新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴い対面での研修機会は大きく減少した。
- ・ 一部の研修は完全オンライン・ハイブリッド形式を取り入れ、結果として様々な理由でこれまで参加が困難であった参加者にも参加機会を提供することができた。

3. 調査・研究

- ・ 様々な厚生労働科学研究等の外部助成金による研究活動を行なった。
- ・ 日本小児保健協会及び日本小児科学会の委員会活動を行なった。
- ・ 学術集会は新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴いオンライン開催が多かったが、例年と同程度の学術集会発表を行なった。

4. 情報提供

- ・ ホームページやパンフレットによる情報提供を継続し、センター受診患者増加への貢献している
- ・ 科学的根拠に基づいた幅広い対象への情報提供をおこなっており、今年度改定された愛知県母子健康診査マニュアル第10版もダウンロード可能である。

II. 実績概要

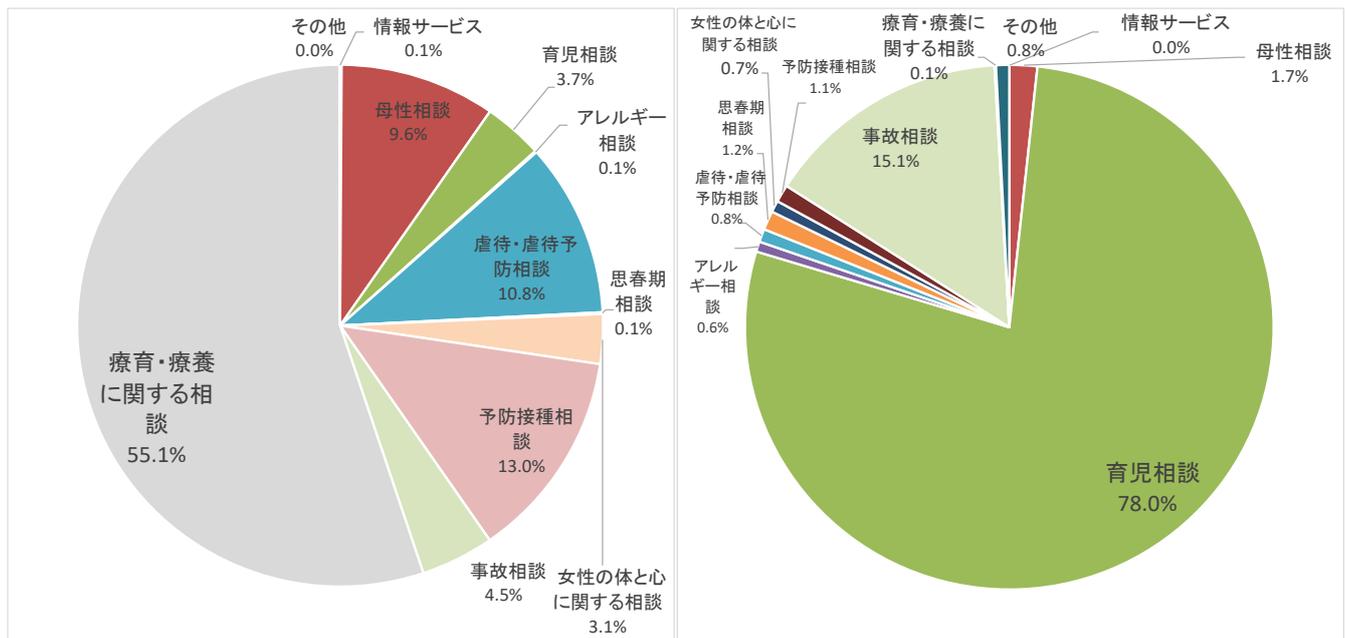
1. 相談・支援

分野別相談活動(保健医療相談、時間外電話相談)

相談分類	保健医療相談		時間外電話相談	
	件数	率	件数	率
調査・研究	0	0.0	0	0.0
教育・研修	0	0.0	0	0.0
情報サービス	6	0.1	0	0.0
母性相談	614	9.6	19	1.7
育児相談	235	3.7	870	78.0
アレルギー相談	6	0.1	7	0.6
遺伝相談	0	0.0	0	0.0
SIDS 相談	0	0.0	0	0.0
虐待・虐待予防相談	690	10.8	9	0.8
思春期相談	7	0.1	13	1.2
女性の体と心に関する相談	197	3.1	8	0.7
予防接種相談	834	13.0	12	1.1
事故相談	289	4.5	168	15.1
療育・療養に関する相談	3,535	55.1	1	0.1
患者家族会支援に関する相談	0	0.0	0	0.0
ボランティア	0	0.0	0	0.0
その他	1	0.0	9	0.8
未分類	0	0.0	0	0.0
総 計	6,414	100.0	1,116	100.0

保健医療相談

時間外電話相談



相談方法別実施件数

相談方法名称	面接	電話	訪問	文書・メール	カンファレンス等	計
調査・研究	0	0	0	0	0	0
教育・研修	0	0	0	0	0	0
情報サービス	1	5	0	0	0	6
母性相談	141	159	0	243	71	614
育児相談	133	95	0	4	3	235
アレルギー相談	3	3	0	0	0	6
遺伝相談	0	0	0	0	0	0
SIDS 相談	0	0	0	0	0	0
虐待・虐待予防相談	219	410	0	16	45	690
思春期相談	3	3	0	0	1	7
女性の体と心に関する相談	35	29	0	132	1	197
予防接種相談	319	512	0	3	0	834
事故相談	119	169	0	0	1	289
療育・療養に関する相談	1,773	1,280	2	333	147	3,535
患者家族会支援に関する相談	0	0	0	0	0	0
ボランティア	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	0	0	1
未分類	0	0	0	0	0	0
総計	2,746	2,666	2	731	269	6,414
比率	42.8	41.6	0.0	11.4	4.2	100.0

相談者と相談対象者の続柄別の件数

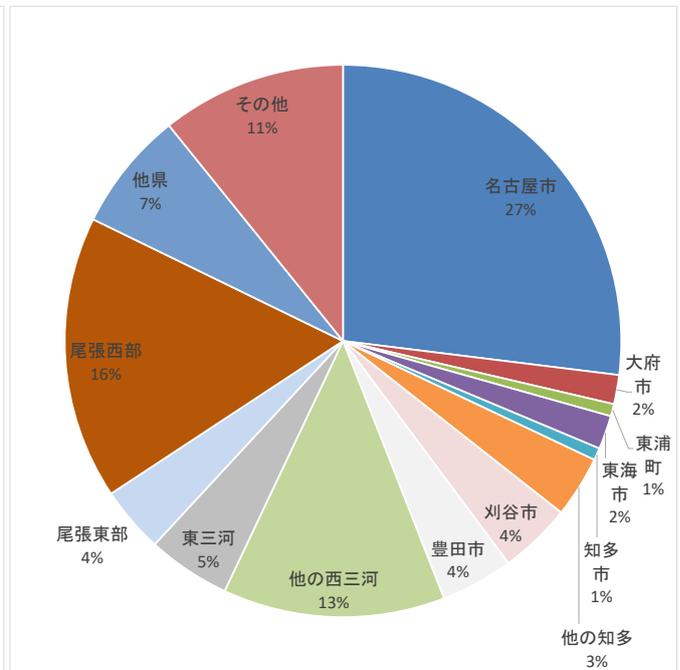
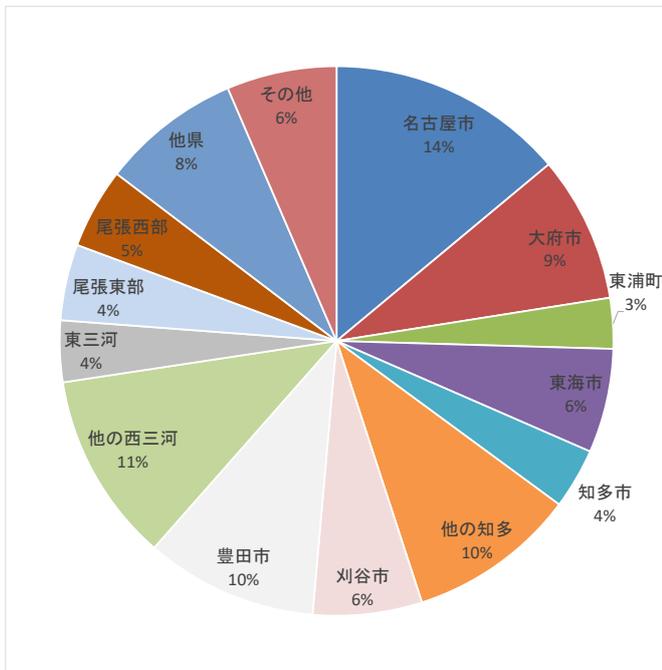
相談者	保健医療相談	時間外電話相談
本人	230	61
配偶者	3	1
母	2,397	996
父	223	51
きょうだい	2	0
祖父母等	26	3
母子保健関係者等	1,089	0
児童相談所等	125	0
医療機関	42	0
学校等	27	0
院内関係者	2,187	0
その他・不明	63	4
総計	6,414	1,116

相談者の地区別相談件数

地区名称	地区	保健医療相談		時間外電話相談	
		件数	率	件数	率
名古屋市		891	13.9	301	27.0
知多地区	大府市	551	8.6	19	1.7
	東浦町	191	3.0	8	0.7
	東海市	393	6.1	22	2.0
	知多市	228	3.6	8	0.7
	他の知多	633	9.9	40	3.6
西三河地区	刈谷市	409	6.4	47	4.2
	豊田市	645	10.1	47	4.2
	他の西三河	715	11.1	144	12.9
東三河地区	東三河	232	3.6	54	4.8
尾張東部地区	尾張東部	287	4.5	43	3.9
尾張西部地区	尾張西部	303	4.7	185	16.6
他県		524	8.2	78	7.0
その他		412	6.4	120	10.8
総計		6,414	100.0	1,116	100.0

保健医療相談

時間外電話相談



院内各診療科からの相談件数

診療科名	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
総合診療科	95	2.9%	64	1.9%	138	2.9%	254	5.1%	273	4.3%
感染・免疫科	42	1.3%	61	1.8%	107	2.2%	82	1.6%	100	1.6%
腎臓科	373	11.3%	197	5.8%	263	5.5%	179	3.6%	338	5.3%
アレルギー科	145	4.4%	149	4.4%	393	8.2%	268	5.4%	255	4.0%
内分泌科	262	7.9%	196	5.8%	144	3.0%	56	1.1%	119	1.9%
予防診療科									3	0.0%
神経科	460	13.9%	456	13.4%	463	9.7%	584	11.7%	525	8.2%
心療科	785	23.8%	347	10.2%	23	0.5%			90	1.4%
循環器科	404	12.2%	656	19.2%	1008	21.0%	1,102	22.0%	1,301	20.3%
心臓血管外科									3	0.0%
脳神経外科	155	4.7%	169	5.0%	346	7.2%	286	5.7%	449	7.0%
小児外科	194	5.9%	63	1.8%	144	3.0%	328	6.5%	185	2.9%
整形外科	68	2.1%	81	2.4%	132	2.8%	48	1.0%	40	0.6%
泌尿器科	126	3.8%	289	8.5%	69	1.4%	145	2.9%	172	2.7%
形成外科	26	0.8%	2	0.1%	31	0.6%			8	0.1%
耳鼻咽喉科	42	1.3%	19	0.6%	46	1.0%	40	0.8%	69	1.1%
眼科	4	0.1%			29	0.5%	20	0.4%	15	0.2%
歯科口腔外科	14	0.4%	2	0.1%	22	0.5%	1	0.0%	8	0.1%
保健科									28	0.4%
救急診療科	39	1.2%	19	0.6%	210	4.4%	257	5.1%	200	3.1%
新生児科	27	0.8%	480	14.1%	710	14.8%	551	11.0%	503	7.8%
産科	37	1.1%	158	4.6%	513	10.7%	808	16.1%	533	8.3%
診療科相談計	3,298	100%	3,408	100%	4,791	100%	5,009	100%	5,217	100%
保健医療相談総数	5,412		5,500		5,672		5,903		6,414	
診療科相談の割合	60.9%		62.0%		84.5%		84.9%		81.3%	

相談・支援機能のそれぞれの課題毎の実績を以下に示す

<p>妊娠期からの 児童虐待予防 ・対応活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期からの児童虐待予防・対応活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門家への対応と事例への対応 虐待・虐待予防に関する保健医療相談は686件で全相談の10.7%であった。時間外電話相談にも9件の相談があった。 2. 院内での虐待の早期発見・支援活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 権利擁護委員会ケース検討会議の実施 今年度新規事例及び前年度からの継続事例に対し個別ケース会議を44回開催した。地域関係機関を含めた検討会議は25回実施し、検討会参加者は、センターから延べ127名、地域関係機関等から330名、計457名であった。 2) 権利擁護委員会ネットワーク会議の活動と虐待ケースの進行管理の実施 ネットワーク会議は、センター内保健・医療の各部門からの構成員27名で組織され、令和2年度は6回開催し、新規事例44事例について進行管理を行った。センターからは1件の通告を実施した。 3. 周産期からの虐待予防活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 院内での虐待予防活動
------------------------------------	---

	<p>平成28年11月に周産期部門（産科・NICU）が開設されたことから胎児異常のある妊婦のメンタルヘルスへの地域を含めた早期介入、家族形成期にある家族のこころの動揺に対する細やか家族支援を行うこと、虐待予防の観点からも妊娠期から切れ目のない支援を行うことを目的に連携会議を発足させ、平成30年度家族支援委員会となり月1回要支援家族の検討や院内の連携体制の整備、支援内容の充実に向けた話し合いを行っている。</p> <p>2) ハロー・ファミリーカード事業の拡大・充実 令和2年度はプロジェクト参加機関が136機関（医療機関71、保健機関65）となった。</p> <p>3) 保健機関における周産期から乳幼児期の保健活動の集約と医療機関等への情報提供 周産期医療機関との連携を図るため、保健機関に対し、妊娠期、乳幼児期の母子保健活動についての情報更新を依頼している。平成29年度からは、母子保健活動に加え子育て世代包括支援センターや児童福祉サービスも一元的に情報提供できるよう様式を変更し、ホームページで発信している。</p> <p>4) 研修会の開催(2.教育・研修 参照) ◆周産期医療現場スタッフと取り組む子育て支援に関する研修会 ◆虐待予防のための研修会</p>
<p>時間外 電話相談活動</p>	<p>1. 専用電話相談窓口「育児もしもしキャッチ」の運営 電話相談員の体制を1日当たり3人として連日実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行拡大の影響を受け一時休止、その後2人体制週3日で再開した。相談員の確保は安定しており必要人員の100%の充足率であった。相談件数は、1,116件で昨年度3,152件から2,036件減少した。対応不能件数259件を加えた総着信数は1,375件（平成31年度3,603件）であった。</p> <p>2. 専門相談員の連絡会・研修会・事例検討会 相談の質の向上のために3回実施した。時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」相談情報分析、育児もしもしキャッチの広報活動としてカード・ポスターの配布、相談員確保の活動を実施した。</p>
<p>子どもの 事故予防活動</p>	<p>1. 子ども事故予防ハウスの運営 事故予防ハウスの利用者は186名であった。また事故予防ハウスでは実際の浴室や階段、台所における予防策の体験や、当センターで作成したDVD「子どもの事故予防」やパネル等の媒体による事故予防情報の提供している。事故体験の募集のために設置したポストに1件の事故体験が寄せられた。</p> <p>2. 子どもの事故予防教室の実施 子ども事故予防ハウスで実施した「子どもの事故予防教室」（近隣住民および子育て支援関係者対象）には10回84名が参加し、前年度比2倍以上の増加であった。</p> <p>3. 調査研究活動</p>

	<p>子どもの事故サーベイランス調査を、碧南市（平成14年11月～）、知多市（平成14年12月～）の1歳6か月児健診・3歳児健診で継続している。</p> <p>4. 小児救急事故予防対策事業</p> <p>平成28年2月に救急棟がオープンし、同3月小児救命救急センターに指定された。以降家庭内の事故等で受診したケースに対して、救急科医師等からの介入依頼が増加し、救急科と保健部門との連携体制を強化することを目的に、平成29年度から小児救急事故予防対策事業を開始した。</p> <p>事故予防の指導：家庭内の事故等で救急外来を受診した患者のうち、事故予防指導が必要と救急科医師が判断したケース（外来患者・入院患者の家族112名：令和2年度）について、保健師から、事故予防ハウス、事故チェックリストなどを活用して保健指導を実施した。</p> <p>ケースに関する調査：H30年度に事故予防指導を実施したケースについて分析をし、救急科とも情報を共有、個別保健指導の手順書を見直し、マニュアルを作成した。</p>
<p>在宅療養支援 院内・地域との 連携活動</p>	<p>1. ケースを通しての院内連携</p> <p>医療部門からの連絡は総計237件であった。周産期部門との連携体制の構築により、妊娠期からのハイリスクケースの連絡は67件、周産期退院支援スクリーニングシートによる68件であった。</p> <p>入院中の連絡件数は167件で、31年度(194件)よりやや減少した。病棟別連絡件数ではNICUが68件(28.7%)と最も多く、22病棟37件(%)、PICU病棟33件(%)、21病棟36件(%)、23病棟9件(%)、32病棟36件(%)、31病棟16件(4.2%)、20病棟(+産科外来)67件(28.3%)の順に多く、全ての病棟から依頼があった。</p> <p>外来を含む診療科別連絡件数では、新生児科68件(28.7%)、産科67件(28.3%)循環器科58件(24.5%)、脳神経外科35件(14.8%)循環器科58件(%)、総合診療科28件(%)、外科18件(7.7%)、神経科14件(7.2%)、の順に多かった。</p> <p>2. 地域との連携</p> <p>地域からの連絡は35件であった。連絡元は市区町村の保健センターからが22件(62.9%)大多数を占め、ないよはh受診内容に関する問い合わせがほとんどであった。</p> <p>3. 在宅療養支援におけるカンファレンスの状況</p> <p>在宅療養等に向けたカンファレンスを131回開催し、うち37回は訪問看護ステーションや福祉機関、保健機関等の院外関係者を招いて開催した。</p> <p>4. 在宅療養児支援研修</p> <p>平成17年度から、訪問看護ステーションに勤務する看護師等を対象に、小児の受け入れ態勢の充実をめざした研修会を開催している(2.教育・研修参照)。</p> <p>5. 医療ケア児を育てる保護者のためのグループミーティング</p> <p>平成26年度から在宅療養児支援研修の一貫として、保護者による交流会の場を設けている。(2.教育・研修参照)。</p>

	<p>6. NICU 卒業児の親の会（染色体異常、遺伝疾患） 同じ境遇を経験してきた家族同士が交流出来る場、さらに気軽な気持ちで参加できる場を設ける目的で平成 29 年度に開始した。（2. 教育・研修 参照）。</p> <p>7. 母子保健スキルアップ研修 「母子保健における新任期の保健所保健師の人材育成のための実務研修」をテーマにとりあげ、愛知県保健所の採用 2 年目～4 年目の保健師 2 人を対象とし、母子保健や児童虐待予防に関する幅広い技術及びアセスメント能力の向上を図る目的で実施した。（2. 教育・研修 参照）。</p> <p>8. 保健師のための専門講座 母子保健活動における専門的知識を深める目的で平成 29 年度より実施している。（2. 教育・研修 参照）。</p>
<p>子どもと家族の ヘルスプロモーション活動</p>	<p>1. こどもの生活習慣病予防教室 「アチェメック健康スクール」（こどもの生活習慣病予防教室）は、内分泌科のアチェメック健康スクール外来を中心とした通年型の活動として実施している。令和元年度参加者は 8 名（新規 6 名）であった。年度中にスクールを終了した者 4 名中 4 名の肥満度が改善した。県内の学校、保健関係者の相談の受け皿、対象児の紹介先の資源として機能している。</p> <p>2. 親子のタバコ対策活動 ホームページやセンター内掲示等の受動喫煙防止の啓発資料作成、掲示を継続。</p>
<p>愛知県予防接種 センター事業</p>	<p>1. 接種要注意者、海外渡航者等に対する予防接種の実施 予防接種実施件数 999 件。平成 26 年より「愛知県広域予防接種事業」が開始となり、県下 54 市町村すべての地域で、市外かかりつけ医のもとで予防接種を受けることができるシステムとなり、県内すべての対象者には実施可能となっている。</p> <p>2. 保健医療相談及び情報提供 相談件数 835 件 ホームページの情報更新</p> <p>3. 研修会の実施 健康福祉部健康対策課との共催で本年度から「愛知県予防接種基礎講座」として実施した。第 1 回（令和 2 年 11 月 22 日）参加者：66 名（web 参加含む）、第 2 回（令和 2 年 12 月 6 日）参加者：72 名（web 参加含む）で、市町村の予防接種担当や医療機関の医師・看護師等が参加した。今年度は新型コロナウイルス流行に伴い、Web 会議システムでの配信も同時に行った。</p>
<p>国際保健 医療活動</p>	<p>ヤング・リーダーズ・プログラム（名古屋大学大学院医学系研究科・医療行政修士コース）：COVID-19 のパンデミックのため中止となった。</p> <p>1. 国際協力機構（JICA）課題別研修・国別研修 「生活習慣病予防」コース：COVID-19 のパンデミックのため中止となった。</p> <p>2. JICA 技術協力プロジェクト「タジキスタン国ハトロン州母子保健システム改善プロジェクト・フェーズ 2」専門家派遣 COVID-19 のパンデミックのため中止となったが、現地スタッフとのオンラインでの定例会議が 2 週間ごとの金曜 8:30 迄</p>

	ら（タジキスタン時間）：12:30 から（日本時間）開催され、2020年5月22日から2021年3月19日の期間に14回参加して助言などを行った。
国際学校保健活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. JICA 課題別研修事業：平成30年度「学校保健」コース 研修計画の立案は行なったが COVID-19 のパンデミックのため中止となった。 2. 国際学校保健セミナーの開催 COVID-19 のパンデミックのため中止となった。 3. JICA-net を利用したプロGRESS報告会 COVID-19 のパンデミックのため中止となった。
多文化共生支援活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいち医療システムの実施 愛知県（地域振興部国際課多文化共生推進室）が企画した医療機関等の依頼に応じて、一定レベル以上の知識を持った医療通訳の派遣等を行うシステムの構築を目指した平成23年度のモデル事業の参加を踏まえて平成24年度から本格実施に参加した。 個別に通訳依頼があった件数は30件で、昨年度に比べ5件減少した。その内、高度通訳は10件（42.9%）であった。言語別では、ポルトガル語が13件（43.3%）で最も多く、ベトナム語が8件（26.7%）スペイン語とフィリピン語が各4件（22.3%）、英語が1件（20.0%）であった。診療科別ではアレルギー科・腎臓科・集中治療科各4件、整形外科・小児外科・循環器科各3件、神経科・総合診療科・新生児科・耳鼻咽喉科各2件、泌尿器科が1件の利用であった。高度通訳は手術前の麻酔、手術に関する説明や病状悪化に伴う治療方針のインフォームドコンセント等に用いられていた。受付から検査、診察、会計まで一連の利用、手術中の待機等により時間延長のケースが13件（43.3%）あった。 7件の電話通訳利用、9件の文書翻訳があった。 2. あいち医療システム研修への協力 当センターにおいて、医療通訳者の現場ロールプレイ研修に協力した（令和2年12月6日）。 3. ブラジル学校での学校健診実施への協力 例年、社会福祉法人恩賜財団済生会愛知県済生会リハビリテーション病院がブラジル学校であるイザキ・ニュートン校（岐阜県美濃加茂市）において、学校健診を実施してきたが、本年度は COVID-19 パンデミックのため開催中止となった。

第1章 保健活動概要

2.教育・研修(研修会・講演会等、保健師が主催・実施したもの)

内容別実施状況

研修内容	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
事故予防研修	56	137	66	127	153	247
虐待予防研修	3	198	3	274	4	208
予防接種研修会	2	125	2	244	2	138
時間外電話相談員研修	2	19	3	25	3	21
国際母子保健研修	2	22	4	42	0	0
国際学校保健研修	3	91	1	15	0	0
ボランティア研修	3	52	0	0	0	0
保健所保健師母子保健実務者研修	10	52	10	42	0	0
地域保健医療連携研修	23	794	20	744	9	311
在宅療養児支援研修	1	107	1	106	2	143
その他	17	162	17	126	7	133
計	122	1759	127	1745	180	1201

対象別実施状況

対象	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
保健福祉関係者	48	1507	45	1573	10	902
患者・家族、一般県民等	74	252	82	172	170	299
計	122	1759	127	1745	95	1201

実施内容

研修名	開催日及び場所	内容	対象	参加者数
児童虐待予防のための研修会	令和2年12月4日(月) 場所：あいち小児センター	講演「Withコロナで問われるゲーム・スマホと子ども～虐待予防のためにできること～」 講師：スマホ依存防止学会(PISA) 予防医療研究所代表 磯村 毅 先生	市町村・保健所保健師、子育て支援担当課、要対協担当課、児童相談所職員等	会場 23人 Web 32台
周産期子育て支援研修	令和2年10月26日(月) 場所：あいち小児センター	1. 講演「子ども虐待予防の観点からみた妊娠中からの地域と連携した支援」 講師：関西医科大学 看護学部看護学科 教授 上野 昌江 先生 2. 支援者交流会	小児科・周産期医療機関及び市町村・県保健医療福祉関係者	会場 33人 Web 36台

<p>保健所保健師母子 保健実務者研修</p>	<p>コロナウイルス感染対策のため、今年度は中止</p>		<p>愛知県人材育成ガイドラインでキャリアレベル A-2 または A-2 の獲得を目指す保健所保健師</p>	
<p>保健師のための専門講座</p>	<p>令和2年10月30日(金) 場所：あいち小児センター</p>	<p>講義「乳幼児の視覚の発達と乳幼児健診診査における視覚検査の意義について」 講師：あいち小児センター 視能訓練科主任 堀 普美子氏 講義「新生児及び乳幼児健康診査における聴覚検査の意義と早期治療・早期療育の重要性について」 講師：あいち小児センター 言語聴覚科長 浅見 勝巳氏</p>	<p>市町村保健師、保健所保健師</p>	<p>51人</p>
<p>在宅療養児支援研修会</p>	<p>令和2年9月28日(月) 場所：あいち小児センター</p>	<p>1. 報告「医療的ケア児の支援と地域連携の現状と今後について」 報告者：保健室 秋津 佐智恵 2. 講演「ケアっ子の思いを伝える 保育所・学校への医療的ケア児訪問看護の実践」 講師：一般社団法人キッズハルカこども訪問看護ステーションmom 管理者 澤野 由佳氏 3. 支援者交流会</p>	<p>県内の訪問看護ステーション職員、相談支援専門員、県保健所・市町村に勤務する保健師・障がい担当者 等</p>	<p>会場 36人 Web 25台</p>
<p>母子健康診査マニュアル 関連</p>	<p>研修会 コロナウイルス感染対策のため資料配布で実施 保健所主催マニュアル還元等会議 令和2年12月から令和3年2月</p>	<p>研修会 講話「母子健康診査マニュアル改定の基本的な考え方について」 講師：あいち小児センター 保健センター長 山崎 嘉久先生 マニュアル還元会議等 母子健康診査マニュアルからみえる課題について助言(春日井・江南(書面開催)・半田・新城・豊川保健所の会議に参加)</p>	<p>市町村母子保健主管課職員、県保健所職員 保健所・市町村母子保健担当者</p>	<p>計90人 (5回)</p>

第1章 保健活動概要

<p>時間外電話相談員研修</p>	<p>第1回 令和2年10月26日(月) 第2回 令和2年1月14日(火) 第3回 令和2年2月22日(土) 場所: あいち小児センター</p>	<p><第1回> 周産期医療現場スタッフと取り組む子育て支援に関する研修会受講による研修 <第2回> 児童虐待予防のための研修会受講による研修 <第3回> 事例検討「発達障害に関する相談への対応で困った事例について」 助言者: あいち小児センター 心療科 川村 昌代先生</p>	<p>時間外電話相談員</p>	<p>第1回 8人 第2回 5人 第3回 8人 計21人</p>
<p>愛知県予防接種基礎講座</p>	<p>共催: 愛知県感染症対策局 感染症対策課 第1回 令和2年11月22日(日) 第2回 令和2年12月6日(日) 場所: ABO HALL</p>	<p><第1回> ・日本の予防接種の仕組み～定期接種と任意接種～ ・免疫のシステムとワクチンの働き ・ワクチンの種類と構成物 ・ワクチンで予防できる疾患 ・予防接種後の有害事象対応 ・特別な背景を持つ人への予防接種 <第2回> ・ワクチンスケジュールについて・接種間隔の変更 ・愛知県の予防接種に関する取り組みについて ・予防接種間違いを防ぐための工夫 ・ワクチンの在庫管理について ・アナフィラキシー/血管迷走神経反射への対応 ・予防接種後の有害事象反応 ・ワクチン忌避との関わり方 <講師> 名古屋大学医学部附属病院中央感染制御部 手塚 宜行先生 安城厚生病院小児科 鈴木 道雄先生 江南厚生病院小児科 後藤 研誠先生 愛知県感染症対策局感染症対策課 あいち小児センター 感染免疫科 河邊 慎司先生 同総合診療科 伊藤 健太先生、</p>	<p>行政予防接種担当、 医療機関予防接種従事者等</p>	<p>第1回 会場 26人 Web 40台 第2回 会場 22人 Web 50台 計48人 計90台</p>

		樋口 徹先生、小川 英輝先生		
国際母子・学校保健関係	名大ヤングリーダーズ研修 JICA研修 タジキスタン国際母子保健研修 コロナウイルス感染対策のため、今年度は中止		名大ヤングリーダーズ研修 受講生 JICA研修受講生 タジキスタン国際母子保健研修生	
その他	新人看護師研修 令和2年4月17日(火) 場所: あいち小児センター	児童虐待の対応について	センター新規採用看護師・助産師	40人
	あいち小児在宅リハビリテーション研修会 令和2年7月4日(土)	講演「医療的ケア児の在宅支援について」 講師 医療法人稲会 理事長 土畠 智幸先生	子どもの在宅医療、リハビリに関わる者	会場 20人 Web 62台
	愛知教育大学養教養成課程研修 令和2年7月8日(水) 場所: あいち小児センター	保健センター保健師の活動と学校保健との連携について	愛知教育大学養護教諭養成課程 3年生	42人
	西尾保健所研修医実習 令和2年7月29日(水) 場所: あいち小児センター	あいち小児センターでの事故予防指導について	西尾保健所研修医等	7人
	愛知県看護協会研修 令和2年8月29日(土) 場所: 愛知県看護協会	講義「あいち小児センターにおける医ケア児への支援と関係機関連携について」	愛知県内の保健師・助産師・看護師	Web 46台
	愛知県医療機関虐待対応ネットワーク事業 令和2年10月8日(木) 場所: あいち小児センター	あいち小児センター保健センターでの虐待予防・子育て支援について	虐待対応医療機関、児童センター関係者等	44人
	児童相談センター保健師研修会 令和2年10月8日(木) 場所: あいち小児センター	あいち小児センターでの事故予防指導の実際について	児童相談センター保健師	10人

第1章 保健活動概要

	主催：豊川保健所 子育て包括会議研修会 令和2年10月23日（金） 場所：豊川市保健センター	講義「ケアプランの作成について」 グループワーク「面接の実際について」	豊川保健所管内母子 保健関係者	16人
	主催：春日井保健所 子育て包括会議研修会 令和2年12月21日（月） 場所：春日井市	講義「ケアプランの作成について」 グループワーク「面接の実際について」	春日井保健所管内母 子保健関係者	19人
	主催：成育医療センター アドボカシー研修 令和3年2月19日（金） 場所：あいち小児センター	報告「あいち小児センター保健センターの 活動と地域連携について」	後期研修医等	30人
家族支援関連	NICU卒業児の親の会（にこにこの会） ① 令和2年7月17日（金） ② 令和2年11月28日（土） ③ 令和3年3月4日（土） 医療的ケア児を持つ保護者の会（ぼこあぼこ） ① 令和2年10月18日（金） ② 令和3年2月27日（土） 場所：あいち小児センター	NICU卒業児の会（にこにこの会） 染色体異常を持つNICU卒業の親支援グループ 医療的ケア児の会（ぼこあぼこ） 医療的ケアを抱える親支援グループ	染色体異常を持つ NICU卒業児とその保 護者 医療的ケアを抱える 子どもの保護者	① 5人 ② 6人 ③ 3人 延べ14人 ① 7人 ② 6人 延べ13人
事故予防	事故予防教室（定例） 毎月第3土曜日（4月、3 月除く 定例外に2回実 施） 随時指導 場所：あいち小児センター	事故予防ハウスでの事故予防教育・事故予 防指導	乳幼児を持つ家族及 び事故予防教育に関 心のある県民 外来・入院患者の家 族 事故により救急外来 を受診した家族	教室 84 人 随時 163 人 計 247人

<p>アチエメック健康スクール</p>	<p>健康スクール外来 毎月第 2 土曜日</p> <p>健康スクール講話 今年度は実施なし</p> <p>場所：あいち小児センター</p>	<p>スクール</p> <p>・診察、身体測定、医学的検査、栄養指導、運動指導、生活習慣指導、歯科診察（希望者）</p>	<p>学校健診等で肥満による生活習慣病の予防が必要とされた子ども及び保護者</p>	<p>スクール 延べ 25 人</p>
<p>愛知県小児保健協会</p>	<p>令和 3 年 2 月 21 日（日）</p> <p>場所：あいち小児センター</p>	<p>特別講演「『応答する保育』ってどんな保育？～子どもの『やりたい』を見つけだそう」</p> <p>講師：名古屋短期大学保育科 教授 小島 千恵子先生</p> <p>一般演題発表 4 題</p>	<p>愛知県内で小児保健に携わる関係者等</p>	<p>81 人</p>

第1章 保健活動概要

3.調査・研究

3-1. 論文と学会発表・講演等実績

本年度の学術活動の結果として論文等の誌上発表を9本（うち英語論文2本）行い、11演題の学会発表を行なった。

3-2. 以下の合計6つの厚生労働科学研究費補助金各研究事業研究班の研究分担者として研究を行い、合計10本の報告書を作成した。

【厚労科研】「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」

（研究代表者 山梨大学社会学講座 山縣然太郎）

「母親のヘルスリテラシーに関連する社会経済的因子と情報源の検討」

「新型コロナウイルス感染症に関する健康情報の利用と行動変容について」

「知のデータベース構築に関する研究」

【厚労科研】「特定妊婦に対する支援の均てん化に向けたアセスメントツール及び多職種連携地域支援プログラムの開発と社会実装についての研究」（研究代表者 国立成育医療センター 立花良之）

「特定妊婦に関する情報共有の実態調査」

【厚労科研】「子育て包括支援センターの全国展開に向けた体制構築のための研究」

（研究代表者 母子保健推進会議 佐藤拓代）

「都道府県や県型保健所による子育て世代包括支援センターの機能強化支援のための研究」

【厚労科研】「身体的・精神的・社会的に健やかな子どもの発育を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究」（研究代表者 東京大学小児科 岡明）

「乳幼児健康診査における精度管理データに関する実証的な検討」

【厚労科研】「災害に対応した母子保健サービスの向上のための研究」

（研究代表者 国立成育医療センター 小枝達也）

「乳幼児健診データを活用した被災地における乳幼児の健康状況の検討～文献データに基づいた検証～」

【厚労科研】「感染症流行下における適切な乳幼児健康診査のための研究」

（研究代表者 国立成育医療センター 小枝達也）

「感染症流行下における適切な乳幼児健康診査のための研究 一次調査」

「感染症流行下における適切な乳幼児健康診査のための研究 -オンライン保健指導に関する二次調査-」

「感染症流行による母子の生活及び健康の影響 -乳幼児健康診査事業担当者に対する調査より-」

【厚労科研】「わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究」

（研究代表者 名古屋大学 沼口 敦）

活動として、児童相談所との協議の場を設ける予定であったがコロナのため中止となった。

4. 情報提供

小児保健医療 情報サービス 活動	<ol style="list-style-type: none">1. ホームページの運営 令和元年度の母子保健情報のコンテンツ更新回数は14回、年間ページ閲覧件数2,655,889件のうち、保健部門のページ閲覧件数664,317件であった。患者・家族会との連携でHP情報の情報を更新した。2. 広報誌の発行 あいち小児保健医療総合センターだより「アチェメックの風」計2回（第56号～第57号）発行。3. 母子健康診査マニュアル集計報告 愛知県事業である母子健康診査マニュアルの市町村保健センターからのデータを、愛知県保健所を介して集計・分析した。
------------------------	---